

6 2019年の新年賀詞からみた中国経済の現状と行方

江原 規由 *Noriyoshi Ehara*

(一財) 国際貿易投資研究所 研究主幹

要約

毎年恒例の習近平国家主席の新年賀詞^{注1}は、中国の現状、人民へのメッセージ、中国と世界の間を簡素に映し出している。2019年の新年賀詞は1,835字からなる。この字数から時の中国の全体像を見るのは、「木を見て森を見ず」ではあるが、中国をみるひとつの視点を提供している。

習近平国家主席は、2019年の新年賀詞で、2018年を振り返り、“大変充実し揺るぎない1年であった。この1年、我々は各種リスクと挑戦に打ち勝ち、ハイクオリティの経済発展を推進し、新旧エネルギー転換を速め、経済が合理的範囲内^{注2}で発展できるようにしてきた”と総括し、2019年については、“中華人民共和国70周年を盛大に祝う。いばらの道を切り開き、雨の日も風の日も前進し続けてきた”と振り返り、そのあと、“2019年は、チャンスもチャレンジもあり、共に力の限りを尽くして戦っていかねばならない”と明言した。総じて、今年の新年賀詞では、①改革開放のスピード・アップ、②ハイクオリティ発展、③民生向上^{注3}、さらに、最終部分で、④人類運命共同体の建設とそのプラットフォームとしての一帯一路の積極的な推進が強調されている。

本稿では、新年賀詞での強調点を軸に、その背後にある内外の課題への中国の対応、中国経済の行方、世界における中国の主張などにつきレポートをしている。なお、本レポートで触れている要点のこれまでの経緯、詳細については、本誌「季刊 国際貿易と投資」各号をご参照いただきたい。

1. 民生向上に関するメッセージが目立った新年賀詞

まず、2019年の新年賀詞で注目すべきは、貧困脱却に努力し、また、命もいとわず人民に奉仕した11氏（下記）を実名で紹介し、“～我々は人民にしっかりと寄り添い～”と言及し、さらに、“退役軍人、宅配便の宅配スタッフ、都市の清掃員、タクシードライバーおよび数多くの労働者諸氏が美しい生活を創り出してくれている努力に感謝しなければならない”と、人々の労働、日常への言及に多くの時間を割いているところであろう。

○新年賀詞で“生活難にある大衆たちのことを終始忘れることはない”の対象とされた人々

- ・吉好也求、節列俄阿木（ジハオヤチュー、ジェレオアム）：四川涼山三河村のイ族。
- ・趙順利一家：山東省済南三澗溪村。
- ・陳玉芳一家：遼寧省撫順の東華園団地（自然災害からの避難、移転と再就職について）。
- ・陸奕和：広東省清遠の連樟村（貧困脱却の策について）。

○新年賀詞で輝く名前と言及された人々

- ・林俊徳、張超：全軍の英雄模範。
- ・王継才：32年間、島の保衛業務に従事。
黄群、宋月才、姜開斌（中国船舶重工集団第760研究所）：国家重要プロジェクトの試験プラットホームを守るため台風の犠牲。
- ・その他の国や人民のために命を投げ打った英雄たち。

さらに、新年賀詞では、人民のことを、“2019年、私たちは中華人民共和国建国70周年の誕生日を迎えます。これまでの70年、いばらの道を切り開き、雨の日も風の日も前進し続けてきました。人民こそが共和国の確かな根幹であり、人民こそが私たちが政権を執る上での一番のより所なのです”と称えている。

新年賀詞をみる限り、習主席の、党としての「人民ファースト」の姿勢が読み取れ、この点では建国の父とされる毛沢東主席の「為人民服務」（人民に奉仕せよ）のスローガンを彷彿とさせるところがある。見方を変えれば、中国の指導者が人民への配慮と人民からの支持を大いに気にしなければならない時代に入ったということであろう。

新年賀詞で紹介されている「人民ファースト」の実例

全国125の貧困県が貧困脱却、農村部の1,000万人貧困人口が貧困から脱却、ガン治療薬17種の値下げ・医療保険目録にリストアップ、1億人余りの都市戸籍のない人口が都市部に定住できる取組みを推進、1,300万人の都市部での就職口確保、バラック地区の改造を目指す住宅建設が新規に580万戸着工、数多くの香港・マカオ住民が居住証を入手、香港が全国高速鉄道網に編入等。

2. 2019年の中国経済の行方を占う米中貿易摩擦

中華人民共和国の建国70周年に当たる2019年は、前年の改革開放40周年の成果を受け、さらに、来年の2020年の小康社会（誰もが少し余裕を実感できる社会）の実現年、そして、2021年の中国共産党結党100周年への関頭の一年となっていることが、新年賀詞の節々から認められる。

2018年は、世界経済の大停滞を招いた2008年のリーマンショック10周年である。“10年ごとに歴史は繰り返す”ではないが、世界経済にとって、リーマンショックの二の舞ともなりかねないと懸念されているのが中米貿易摩擦の行方であろう。今年、米中国交40周年を迎えるが、昨年12月29日、習主席はトランプ大統領との電話会談で、“国交40周年に当たり、共に重大な国際・地域問題につき意思疎通を図り協調、協力、安定した中米関係を推進することを望む”とし、また、トランプ大統領は、“アルゼンチンでのコンセ

ンサス（ブエノスアイレスG20 開催時の米中首脳会談での合意）が実現されるよう両国の関係者が努力をしていることは喜ばしく、世界各国人民にとって好ましい成果となることを期待する”と応じたと報じられている（新華ネット2018年12月30日）。

ところで、2018年3月、米国が本格的に口火を切った貿易摩擦の影響を考慮し、同年9月、WTOは2018年と2019年の世界の財貿易量の伸び率（4月時点、4.4%、4.0%）を前年比それぞれ3.9%、3.7%に下方修正した。現在の世界経済は、少なくとも、トランプ大統領の期待とは裏腹に、まだ、“好ましい成果”となっていない。

アルゼンチン・コンセンサスの期限は今年3月1日である。その要点は、米国が本年1月1日に予定していた2,000億ドル分の中国製品に対する関税の追加引上げ（10%から25%へ）を90日間遅らせることに同意し、一方、中国は米国との貿易不均衡を是正するため、米国から農産品やエネルギー、工業製品などの輸入拡大を実施する。さらに、米中双方は、強制的な技術移転、知的財産保護、サイバー攻撃、サービス、農業などに影響についての協議を開始するというもの。米中貿易摩擦が本格化してからまる1年目となる今年3月、その行方に世界経済の今後を占うカギがあるといっても過言ではないであろう。

3. 人類運命共同体はグローバルガバナンスの「メイドインチャイナ」

米中アルゼンチン・コンセンサスはあったものの、90日後にどんな結末となるのか、依然不確定要因が少なくない。その最たる事件が、中国を代表する通信機器メーカーである華為（ファーウェイ）の副会長兼最高財務責任者（CFO）のカナダの空港における拘束であった。この拘束劇は米国の要請でカナダ当局が動いたとのことであるが、意外であったのは、同CFOが拘束されたのが、米中首脳会談の当日であったということである。現在、同CFOは制限つきで釈放されてはいるものの、中国側が元カナダ人外交官を拘束するなど、華為事件に起因するとされる事件が発生している。

米中貿易摩擦とその展開（アルゼンチン・コンセンサス、華為CFO拘束事件、中国の報復措置とされる逮捕劇など）の背後には、究極的には、グローバルガバナンスの形成に関わる米中両大国の駆け引き、綱の引き合いがあるのではないだろうか。そういう視点から、新年賀詞を読み解くと、中国の言い分はその最後の部分に行きつく。すなわち、“世界に眼を放てば、今、この百年間で未曾有の大変革に直面している。しかし、国際情勢がいかに変化しようとも、中国が世界平和を維持し共同发展を促進するという誠意と善意も変わらない。中国は一带一路の共同建設を積極推進し、引き続き人類運命共同体を推進し、さらに繁栄した美しい世界をつくるため努力を惜しまない”。

習主席は、よく“公正で客観的なグローバルガバナンスの変革”を希求し提起している。何が“公正で”、何が“客観的”かは、中国の歴史認識や思惑もあり特定することは難しいが、中国のいうグローバルガバナンスとは賀詞にある人類運命共同体（繁栄した美しい世界）を構築するための世界的コンセンサスの形成を指しているといえるのではないであろうか。さらに、一带一路が人類運命共同体のプラットフォームとなっていることが、新年賀詞から読みとれる。

人類運命共同体に関わる言及例

人類運命共同体の構築とグローバルガバナンスなどとの関係については、内外での首脳会談、国際会議などでの基調講演、重要演説、取材などで言及されないことはない。例えば、習国家主席がウォールストリートジャーナル紙の書面取材（2015年9月22日）に応じた時には、“国際連合は、間もなく成立70周年の盛大な式典を挙げる。中国は、加盟国と共に合作共赢（協力・ウィンウィン）を核心とする新型国際関係の構築を推進し、グローバルガバナンス構造を改革し、人類運命共同体を構築したい”と高邁な意義を発信している。人類運命共同体の建設については、国連の関係文書・決議に複数回盛込まれるなど、形式的には、世界的コンセンサスを得ているといえるが、

人類運命共同体建設に込められた中国の意図や本音はなかなかつかめない。この点、参考までに、習主席をはじめとする中国指導者の人類運命共同体への言及部分を、ほんの一部ではあるが以下に紹介しておく。人類運命共同体の提起は、世界における中国の今後をみる重要な視点を提供しているといえる。

人類運命共同体、グローバルガバナンスに関わる指導者の発言の一例
(下記の上層部対話と全人代(2018年3月)以外、習主席発言)

○スイス訪問(2017年1月)

- ・世界経済フォーラム(通称、ダボス会議)での年次総会での基調講演:テーマは「時代の責任を共に担い、世界の発展を共に推進しよう」。

“人類は、すでに、あなたの中に私がいて、私の中にあなたがいる運命共同体を形成している(人類已經成為你中有我、我中有你的命運共同体)”。

- ・国連ジュネーブ事務局:「人類運命共同体を共に構築しよう」をテーマに講演。

“古人曰く、善學者盡其理、善行者究其難(善く学ぶ者は其の理を尽くし、善く行う者は其の難きを究む)と。人類運命共同体の構築は素晴らしい目標だ”。

“歴代の人たちのリレーによってのみ実現する目標だ。中国は広大な国連加盟国、国際組織・機構と人類運命共同体の偉大なプロセスを共に推進する”。

○党19大(2017年10月)

“一帯一路の実施、AIIB創設、~G20(杭州)、BRICS首脳会議(アモイ)などの機会に、人類運命共同体の構築を提起し、グローバルガバナンス体系の変革を促進した”。

○中国共産党と世界政党の上層部対話(2017年11月30日-12月3日)

基調講演テーマ：「手を携えてより素晴らしい世界を建設しよう」

- ・“各国政党の指導者は会議のテーマをめぐり、率直で誠意ある踏み込んだ交流を行い、人類運命共同体を構築し、素晴らしい世界を共同建設する方法、及び政党の責任と役割について広範な共通認識を得て、政党の思想と知恵を体現する『北京イニシアティブ』をまとめた”（宋濤 中共中央対外連絡部長）。

○2018年の賀詞：

“党19大の開催（2017年10月）国内外で重要会議に参加し、関係各方面と突っ込んだ意見交換をし、人類運命共同体を共同して構築し世界各国人民と幸福を分かちことに賛同を得た”。

○全人代（2018年3月）における李克強総理政府工作报告の最終部分：

“新型国際関係の構築を推進し、十分な（完善）グローバルガバナンス改革に積極的に参与し～中国は各国と共に人類運命共同体の構築を推進することに努力を惜しまない”。

○中国国際輸入博覧会（2018年11月）

“中国国際輸入博覧会は中国の独唱ではなく、各国との大合唱である。各位がグローバルガバナンスの改革の新発想につき深く議論を交わし、自由・多角的を共に維持し、包摂・開放型世界経済を共に送信し、人類運命共同体の構築に向け、たゆまず前進し、人類にさらに輝ける未来を開拓しよう”。

○改革開放40周年大会での重要講話（2018年12月）

“積極的に開放型世界経済の発展を推進し、人類運命共同体を構築し、グローバルガバナンスの改革を推進し、覇権主義と強権政治に旗幟鮮明に反対し、世界平和、世界の発展のため中国智慧、中国方案、中国力量でたゆまず貢献する”。

人類運命共同体の建設に込められた意図、本音はなかなかつかめないとしたが、楊潔篪国務委員の下記発言は、何のための人類運命共同体の（世界との）共同建設なのかを単刀直入かつ大胆に主張しており、人類運命共同体の

構築に込められた中国の本音を垣間みることが出来る。

楊潔篪國務委員^{註4}の人民日報（2017年11月19日）の掲載文の要点

テーマ：人類運命共同体の構築を推進する

- ・“人類運命共同体の構築は当代の中国の世界に対する重要思想・理論・貢献である。～”。
- ・“世界は多極化し、経済はグローバル化し、社会は情報化し、文化は多様化しており、新興市場と広大な発展途上国のプレゼンスが増してきている。国際構図は西側が握り西側の価値観に基づく国際関係は、新たな時代の潮流に適応しきれていない。国際社会は新たなグローバルガバナンス理念を必要としている。新たな公正で合理的な国際体系・秩序を構築し、人類に素晴らしい発展ビジョンを切り開く”。
- ・“人類運命共同体の構築はグローバルガバナンスに貢献するための「中国智慧」であり「中国方案」^{註5}である”。

掲載文の中に明記された、“国際構図は西側が握り西側の価値観に基づく国際関係は、新たな時代の潮流に適応しきれていない”は、人類運命共同体の建設を提起する中国の本音に近いといえるのではないだろうか。また、“人類運命共同体の構築はグローバルガバナンス形成に貢献するための「中国智慧」であり「中国方案」であるとの指摘から、人類運命共同体とは、グローバルガバナンスの「メイドインチャイナ」版ともみられよう。

4. 改革開放のスピード・アップとハイクオリティ発展への意義

本稿冒頭、今年の新年賀詞の強調点として、民生向上、人類運命共同体の建設とそのプラットフォームとしての一帯一路の積極推進を指摘した。以下では、本稿の冒頭で指摘した、改革開放のスピード・アップとハイクオリティ発展、そして、最後に、一帯一路の新たな一面を紹介したい。

改革開放のスピード・アップについては、新年賀詞では“これまでの1年、我々は改革開放40周年を盛大に祝い、党と国家機関をシステムチックかつバランスよく再構築し、100項目余りの重要な改革措置を打ち出した。第1回中国国際輸入博覧会（以下、輸入博、下記）を開催し、海南自由貿易試験区（海南FTZ）の建設をスタートさせた。世界は、中国が改革開放を加速し、とことんやるとの中国決心を目の当たりにしたに違いない。改革の足並みは止まらず、開放の大門はますます大きく開くことになるだろう”と言及されている。

ここで言及されている“党と国家機関のシステムチックかつバランスのよい再構築”とは、2018年3月開催の第13期全人代（日本の国会に相当）における国務院の機構改革などを指しているとみられる。第一期習体制下で、歴史的にも類をみない反腐敗キャンペーンを大胆に推し進め、習指導体制に立ちあがっていた病巣に大胆なメスを入れ、そして、第二期体制で早々と国務院をはじめとする国家機構の改革、重要な改革措置を断行し国政のダイエットに着手したということであろう。

輸入博のテーマは、「新時代 未来の共有」で、その主旨は、「改革開放の重要な一里塚」、「一带一路協力を継続拡大するための重要な機会」、「貿易自由化を確固として支持し世界に市場を開放する重大措置」と位置づけられており、展示品を100%輸入する世界唯一・最大の博覧会として、世界の一流企業と一流産品を吸引することを最重視するとした。総じて、輸入博は、①改革開放40年の成果を世界と共有し、②今年5周年を迎えた一带一路で世界との協力を強化し、③自由貿易の推進で世界とのコンセンサスを確認する機会になったとの期待感が強いことなどから、中国にとって一石何鳥もの効果が込められている世紀の博覧会との見方もできよう。今年も開催予定にある。

参考：中国国際輸入博覧会の概要と成果

第一回輸入博のテーマ：新時代 未来の共有

主 旨：改革開放の重要な一里塚、一帯一路協力を継続拡大するための重要な機会、貿易自由化を確固として支持し世界に市場を開放する重大措置

特 徴：展示品を100%輸入する世界唯一・最大の博覧会
アフリカ・アジア・ラテンアメリカ20か国から約100社参展（中小企業が主）

出展企業に関わる注目点：米国企業が出展社数で第3位

第4次産業革命や民生向上に関わる製品展示（ハイテク製造品、スマート設備、農産品、文化・スポーツ関連など）

日 本：国別で最大規模（約380社・団体の出展、中心は中小企業）
日本の中小企業の部材や製品には「匠の技」が生かされ、第4次産業革命の推進に貢献すると見られる出展品がすくなかった。

また、新年賀詞で言及されている海南FTZ（2019年10月正式設置）については、2013年9月、上海自由貿易試験区（上海FTZ）設置以来、中国はこれまで12のFTZを各地に設置、対外開放の特殊拠点を拡大して来ている。海南FTZはその第12番目のFTZとなる。こうした12FTZの中での海南FTZの特徴は、ほかの11FTZは設置都市<直轄市を含む>の一部（同総和面積が約120km²）であるのに対し、海南FTZは海南島全体をFTZとしており、同面積が約3.5万km²と膨大な地域に及んでいる点にある。なお、各FTZは一帯一路、京津冀（北京、天津、河北省のこと）協同発展などの国家戦略を支え、改革の全面深化と対外開放の拡大を推進する上で、新たな突破口と進展を推進することを主たる使命としている。改革の全面深化と対外開放の拠点は、12FTZに限らず長江経済帯発展、粤港澳（広州・香港・マカオ）大湾区建設、長江三角区域一体化など、中国各地に配置されている。この点、

新年賀詞では、“北京・天津・河北の協働発展、長江経済ベルトの発展、広東・香港・マカオ大湾区（グレーターベイエリア）の建設などの国家戦略が安定的に実施されている”と言及されている。

5. 第4次産業革命と改革開放の国際化としての一帯一路

習主席の新年賀詞に第4次産業革命という言葉そのものはない。その関連部分として、“これまでの一年、中国製造、中国創造、中国建造が共に力を合わせ、中国の様相を絶えず変えてきた。「嫦娥四号」探査機の発射に成功し～中略～北斗衛星測位システムのグローバルな運用に確かな一歩を踏み出した。ここで、これらの成果を支えた科学者、エンジニア、大匠（たくみの巨匠）、建設・参加者の各位に敬意を表したい”。との言及が指摘できよう。第4次産業革命は、生産、販売、消費といった経済活動に加え、健康、医療、公共サービス等の幅広い分野に、さらに、人々のライフスタイルにも影響を与えるとされる。人類の未来に大きく関わっている。その主役は人工知能、モノのインターネット、ビッグデータ、ロボット、クラウドなどであるが、その到来は、超スマート生産、超スマート社会の実現をもたらし、世界を大きく変え、人類の未来に大きく関わっている。第4次産業革命の行方は今後のグローバルガバナンスの形成に大きく関わっているとみる識者は少なくない。ところで、今や、第4次産業革命の展開の舞台は宇宙空間（下記）に及びつつある。中国は、宇宙開発・事業に国家の威信をかけて取り組みつつある。

中国の宇宙開発・事業の直近例

- 北斗3号基本システムが2018年末までに正式に開通・稼働開始し、一帯一路関係国・地域に基本的な測位サービスを提供し、地域から世界へと向かう重要な一歩を踏み出すと報道（人民網2018年11月19日）。
- 「鴻雁」（コウガン）衛星ネットワークの1基目衛星の打ち上げ（2018年

12月29日)。

中国初の国家級の投資規模が最大の商業宇宙プロジェクト。同ネットワーク完成後には世界向けのスマート端末通信、モノのインターネット (IoT)、モバイル放送、ナビ強化、航空・航海監視、ブロードバンド接続などのサービスを提供。

○人類初の月裏側探査機「嫦娥4号」と世界初の月裏側中継通信衛星「鵲橋号」の打上げ(2018年12月8日)及び月面の裏側に着陸(2019年1月3日)。

さて、改革開放の国際化についてであるが、筆者は一带一路を改革開放の国際化とみる。何より、両者には、多くの共通点が見出される。改革開放は世界経済の発展にとって、プラス面>マイナス面であったことは疑う余地はないであろう^{註6}。その脈絡でいえば、一带一路も世界経済の発展にとって、プラス面>マイナス面となると期待できよう。

一带一路と改革開放の共通点 (2018年8月現在)

| | 一带一路 | 改革開放 |
|-----------|---|---|
| 主要事業・発展方向 | <ul style="list-style-type: none">・インフラ整備など・都市化 | <ul style="list-style-type: none">・インフラ整備など・都市化／農業近代化 |
| 外資導入拠点整備 | 海外経貿合作区の設置 (5年来) 一带一路沿線20余か国・地区に82か所 入居企業：3995社、累積投資：289億ドル 納税額：201億ドル、就業者：244万人 | ・経済特区→自貿区 (FTZ) (5経済特区→12自貿区) |
| 理念／目標／成果 | <ul style="list-style-type: none">・合作共赢 (ウインウイン) ・共同富裕・一带一路経済圏 (FTA) ・新型国際関係の構築・グローバルガバナンス改革・人類運命共同体建設 | <ul style="list-style-type: none">・先富論 (小康社会→共同富裕)・発展是硬道理 (発展こそ全て)・社会主義市場経済 |

筆者作成

改革開放の国際化と新年賀詞で言及されている改革開放のスピード・アップと重なる部分が少なくなく、また、第4次産業革命における中国の躍進はハイコオリティ発展の成果を物語っているといえるのではないであろうか。

6. 一帯一路の注目点

これまで、一帯一路を改革開放の国際化、人類運命共同体構築のプラットフォームと紹介してきた。一帯一路は中国経済の命運を握る世紀のプロジェクトになったといつてよい。

目下、中国は世界第2位の経済大国であり、世界第1位の生産・貿易大国にして、外資受け入れ国、対外投資国としても世界をリードし、外貨準備においては依然世界第1位である。今後、こうした世界における中国のポジションを維持・発展させ、グローバルガバナンスの形成、人類運命共同体の構築に、大きく関わってくるのが一帯一路といえる。現在、中国は一帯一路経済の中心的存在であり、新年賀詞での言葉を借りれば、“多くの重要な外交活動に参加し、各国の指導者と幅広い交流を行い、友情を固め、信頼を増やし、朋友圈（友好の輪）を拡大してきた”の核心地域となりつつある。一帯一路に対する世界の参加・支持は増えてきているが、課題も少なくない。今後、中国が一帯一路を通じ、グローバルガバナンスの形成で発言力を向上させられるかは、エコノミックパワーや外交活動もさることながら、ソフトパワーをどれだけ発揮できるかにかかっていると大なるものがあるといえる。ソフトパワーとは、軍事力や経済力などの対外的な強制力に偏らずに自国の価値観や文化によって他国を魅了し影響を与え得る能力のことを指す、とされる。例えば、国連の諸活動への貢献度^{註7}や世界的イベントでの注目度などが指摘できる。この点、新年賀詞の言葉を借りれば、中国決心、中国主張、中国声音などの提唱と実践、国際輸入博覧会の開催などがその一角を形成するといえよう。一帯一路はどうか。まさに、ソフトパワー発揮のチャンスに恵まれているといえる。例えば、ソフトパワー発揮の宝庫とされる世界3大イベント（万博^{註8}、五輪、ワールドカップ）の視点からみると、今世紀

に入ってから、その開催地が一带一路沿線国・関連国に集中していることがわかる。特に万博の開催地にはこの傾向が明らかである。こうしたイベントで中国はプレゼンスがどう高めることができるのか、グローバルガバナンス形成での中国の発言力、人類運命共同体の構築での世界の支持の高低に大きく関わって来るのではないだろうか。

この点、国連の持続的開発目標（SDGs）の最終年にあたる2030年に、中国が、2025年の大阪・関西万博に続き万博を開催するというシナリオには、「天の時」があるように思えるのであるが。

今世紀に入ってからの方博^{注9}・五輪・ワールドカップ開催地

- 2002年：日本・韓国（W杯）、アメリカ（ソルトレーク冬季五輪）
- 2004年：ギリシャ（アテネ五輪）
- 2005年：日本（愛知万博）
- 2006年：ドイツ（W杯）、イタリア（トリノ冬季五輪）
- 2008年：中国（北京五輪）
- 2010年：中国（上海万博）、南アフリカ（W杯）、カナダ（バンクーバー冬季五輪）
- 2012年：韓国（麗水万博）、イギリス（ロンドン万博）
- 2014年：ブラジル（W杯）、ロシア（ソチ冬季五輪）
- 2015年：イタリア（ミラノ万博）
- 2016年：ブラジル（リオデジャネイロ五輪）
- 2017年：カザフスタン（アスタナ万博）
- 2018年：ロシア（W杯）、韓国（平昌冬季五輪）
- 2020年：ドバイ万博、日本（東京五輪）
- 2022年：カタール（W杯）、中国（北京冬季五輪）
- 2023年：アルゼンチン（ブエノスアイレス万博）
- 2024年：フランス（パリ五輪）
- 2025年：日本（大阪・関西万博）^{注10}

2026年：カナダ・メキシコ・米国（W杯）

2028年：米国（ロサンゼルス五輪）

2030年：？

注

1

習近平国家主席、2019年新年のあいさつ

皆さま

歳月は止まることなく、時は流れていきます。2019年が間もなくやってきます。北京から皆さまに新年のご挨拶をさせていただきます。

2018年、我々は大変充実した時を過ごし、しっかりとした足取りで歩むことができました。これまでの一年、我々は様々なリスクやチャレンジに打ち勝ち、経済のハイクォリティな発展を推し進め、新旧エネルギーの転換を速めて、経済が合理的な区間で運営するよう確保してきました。青い空、緑の水、きれいな土を守る戦いが順調に推進されており、生活改善の確保に向けた各種取り組みが速やかに推進されており、人々の暮らし向きが改善されつつあります。北京・天津・河北の協働発展、長江経済ベルトの発展、広東・香港・マカオ大湾区（グレーターベイエリア）の建設などの国家戦略が安定的に実施されています。私が各地の視察で、緑あふれる長江の兩岸、建三江にある1100ヘクタールの国家レベル現代農業モデル区の「大地号」で波打つ稲、活気あふれる深センの前海、ほとぼしる活力に満ちた上海のハイテクパークである張江、三つの地方をつないだ港珠澳大橋などを目にし、大変うれしく思っております。これらの成果は全国各民族の人々が袖をまくり上げて一生懸命に努力して築き上げたもので、新時代の奮闘者が汗水を流して手に入れたものなのです。

これまでの一年、中国製造、中国創造、中国建造が共に力を合わせ、中国の風貌を変え続けてきました。「嫦娥四号」探査機が発射に成功し、二隻目の空母が海上公試運転をはじめ、国産大型水陸両用機が水上での初飛行を行い、北斗衛星測位システムのグローバル運用に向けた確かな一歩を踏み出しました。ここで、私これらの成果を支えた科学者、エンジニア、「匠の心」に富むスタッフ全員、ならびに建設者と参加者の全員に敬意を表したいと思います。

これまでの一年、貧困脱却に向けた堅塁攻略の現場から数多くの朗報が伝わってきました。全国では、125の貧しい県が貧困脱却の査収に合格し、1000万人に達する農村部の貧困人口が貧困から脱却しました。また、ガン治療薬17種の値下げを行い、医療保険の目録にリストアップされて、貧困に起因する病気という問題が解決されつつあります。私は、貧困脱却の第一線で取り組んでいる皆様のことを時々思い出しています。村に駐在している幹部、第一書記たち280万人余りは仕事に邁進し、大きな貢献をしています。皆さん、くれぐれも健康には気をつけてください。

私は生活難にある大衆たちのことを終始忘れることはありません。四川涼山の三

河村では、私はイ族出身の村人・ジハオヤチューさん、ジュレオアムさんの家を訪ねました。山東省済南の三カン溪村では、私は趙順利さん一家と膝を交えてお話をしました。遼寧省撫順の東華園団地では、私は陳玉芳さんの家を訪れて自然災害から免れるための避難、移転と再就職の状況を聞き取りました。広東省清遠の連樟村では、私は貧困世帯の陸奕和さんと貧困脱却の策をめぐって話し合いました。皆さんの真摯で素朴な顔が今でも私の脳裏に浮かんできます。新年を迎えるにあたり、皆様方の暮らしが日々向上し、一層素敵になりますようお祈りいたします。

これまでの一年、我々は改革開放40周年を盛大に祝い、党と国家機関を改革して、システムチックかつ全般的な再構築を行い、100項目余りの重要な改革の措置を打ち出し、第1回中国国際輸入博覧会を開き、海南自由貿易試験区の建設をスタートさせました。世界は、改革開放における中国のスピードアップを目にし、改革開放を徹底的に推進するという中国の決意を目にしました。我々の改革の歩みが滞ることはなく、開かれたドアは益々大きく開いていきます。

今年は、大学受験制度が再開した直後の大学生の多くが定年を迎え、代わって2000年以降に生まれた「00世代」が大学に入学しました。1億人余りの都市部戸籍のない人口が都市部で定住できるようにする取り組みが推し進められており、1,300万人が都市部で就職口を見つけることができました。バラック地区の改造を目指す住宅建設が新規に580万戸着工し、新しい都市部住民が自分たちの暖かい家を持つようになりました。数多くの香港・マカオ住民が居住証を手に入れ、香港は全国の高速鉄道網に乗り入れました。このように流動する中国は、繁栄と発展の活力に満ちています。私たちはみな一生懸命に走ってきましたし、みな夢を追いかける人なのです。

今、ここでいくつもの輝く名前を特別に読み上げたいと思います。今年、空には「南仁東星」という星が増えました。全軍の英雄模範の写真には、林俊徳さんと張超さんの名前が加えられました。また、島の保衛業務を32年間務めた王繼才さんのこと、試験用プラットホームを守るために身を挺して、命までも犠牲にした黄群さん、宋月才さん、姜開斌さん及びその他の国や人民のために命を投げうった英雄たちのことを銘記しなければなりません。彼らこそ新時代に、もっとも愛されるべき人たちであり、私たちが永遠に胸に刻み、あやからなければいけない対象なのです。

これまでの一年、数多くの新しい友人、古い友人が中国を訪問しました。私たちはボアオアジアフォーラム年次総会、上海協力機構青島サミット、中国アフリカ協力フォーラム北京サミットなどのホームグラウンド外交を行い、中国の主張や中国の声を発信してきました。私は同僚たちと五大大陸を訪問し、数多くの外交活動に出席し、各国の指導者と幅広い交流を行い、友情を固め、信頼を増やし、友好の輪を広げてきました。

2019年、私たちは中華人民共和国建国70周年の誕生日を迎えます。これまでの70年、いばらの道を切り開き、風の日も雨の日も前進し続けてきました。人民こそが共和国の確かな根幹であり、人民こそが私たちが政権を執る上での一番のより所なのです。これまでの道のりでは、中国人民が自力更生して、忍耐強く奮闘し、世界

から注目された「中国の奇跡」を創り上げました。新しい道のりにおいては、いくら不穏な雲行きがあったとしても、いくら風に吹かれ、波に打たれたとしても、我々は人民にしっかりと寄り添い、自力更生、忍耐強く奮闘することを堅持し、盤石のような固い信念と片時も無駄にしない勢いと強靱な気力で、一歩ずつ着実にこの未曾有の偉大なる事業を前進させていかなければなりません。

2019年はチャンスがあり、チャレンジもあり、皆で一緒に頑張り、一緒に奮闘していかなければなりません。企業に身軽に活動してもらえるように減税と各種目の費用徴取の引き下げ措置を着地させ、根を下ろしていくようにしなければなりません。各業界の人材を尊重し、誠意をもって接し、彼らの創造と革新の活力を十分に活性化していかなければなりません。最前線にいる幹部の声に耳を傾け、責任感があり、行動力のある幹部のやる気を大切にしていきます。農村部の1,000万人余りいる貧困人口の貧困脱却目標を期日通りに完成するには、目標を見定めて一生懸命に努力することが求められています。退役軍人たちは国家を守るために貢献を果たしており、彼らの生活保障を確保していかなければなりません。今日この時、宅配便の宅配スタッフ、都市の清掃員、タクシードライバーおよび数多の労働者たちはまだ懸命に仕事をしている最中です。美しい生活を作り出し、見守ってくれている皆さんに感謝しなければいけません。

世界を見渡せば、我々は今、この百年の間にも見たことのない大きな変革を迎えています。しかし、世界情勢がいかに変化しようとも、中国が国家の主権と安全を守る決心と決意は変わらないもので、中国が世界平和の維持、共同発展を促進するという誠意と善意も変わらないものなのです。我々は「一帯一路」の共同建設を積極的に推し進め、引き続き人類運命共同体の構築を推進して、より繁栄で美しい世界を作り出せるようたゆまぬ努力をしまります。

新年を告げる鐘がまもなく鳴られます。皆さん、どうぞ自信と期待を胸に、2019年を一緒に迎えましょう。

中国を祝福し、世界を祝福します。

皆さん、どうもありがとうございました。

出所：中国国際放送局 2019年1月1日

- 2 6.5%前後の成長率など。
- 3 2018年3月の全国人民代表大会（全人代＝国会）で、李克強首相が政府活動報告で「貧困人口を過去5年間で6,800万人減少させた」と強調し「今年も1,000万人以上減少させる」としていること、雇用についても年間1,000万以上を実現していることなど。
- 4 副首相級、前外務大臣
- 5 「中国智慧」や「中国方案」といった『四字』表現は、指導者の講話、挨拶、報道などで非常に目立つ。新年賀詞でも、世界看到了改革开放的中国加速度、看到了将改革开放进行到底的中国决心（世界は、中国が改革开放を加速しとことんやるとの中国決心を目の当たりにするであろう）。また、我们举办了博鳌亚洲论坛年会、上海合作组织青岛峰会、中非合作论坛北京峰会等主场外交活动、发出了中国主张、发出了中国声音（我々はボアオアジア年次総会、上海協力機構青島サミット、中国-アフリカ協力フォーラム北京サミットなどのホーム外交活動を開催し、中国主張を提起し中国声音<中国の声>を発信してきた）

など。

- 6 改革開放により中国経済は世界第二位の規模となり、今や、世界経済全体の15%を占め、その成長率への寄与率で世界1位の30%超であることなど。
- 7 2018年12月、中国の国連分担金の比率が2位となった。すでに2016年、中国は国連のPKO（平和維持活動）予算でも2位になり中国の発言力が高まっていることなど。
- 8 万博には登録博と認定博がある。愛知万博、上海万博、ミラノ万博、ドバイ万博、大阪・関西万博は5年ごとに開催される規模の大きい登録博。
- 9 国際園芸博を除く。
- 10 アゼルバイジャン（バクー）、ロシア（エカテリンブルク）、フランス（立候補を断念）が開催に立候補していた。立候補国すべてが一带一路沿線・関係国であった。